

## 1. 大手町イノベーション・ハブとは

わが国経済は、「質」、「量」とともに世界の中での相対的地位が低下し、結果、国の産業競争力が低下していると言われて久しい。そこで、日本政策投資銀行（以下、DBJ）は、競争力強化に向けた課題を明らかにするとともに、その克服に向けた取り組みを企業や金融機関等が自らの課題とし、社会全体を巻き込み運動化していくことを目的に、「競争力強化に関する研究会（以下、本研究会）」を立ち上げた。当研究会における産業競争力のカギはイノベーション力の発揮に他ならないとの認識の下、多くの社会的課題を抱えるわが国が再興し世界に貢献するには、社会的課題とイノベーションとを結びつける「構想力」の強化が不可欠であり、そのためには、企業（技術）と金融、学、官がオープンかつフラットな関係で対話し知恵を集め（協創）、社会的課題を解決する骨太のビジネスコンセプトをデザインする方法論と「場（イノベーション・プラットフォーム）」を確立し、そして実際の行動に結び付けていかなければならないと訴えた。

それらを踏まえ、2013年4月に大手町イノベーション・ハブ（以下、iHub）を開設した。iHubは、社会的課題をビジネスで解決することを見据え、企業・官庁・社会（大学・市民・自治体等）と広く連携し、課題抽出（イノベーションのシーズ発掘）と課題解決（マネタイズのシナリオ、新たなバリューチェーン編集）を結び付け、広く「自らの殻」を打ち破る運動を興すとともに、新たな協創型ビジネスを構想する「場」を目指すものである。

## 2. iHubの取り組み

iHubでは、集合知の活用とデザイン・シンキングやシステムズ・エンジニアリングと呼ばれる思考の方法論を組み合わせ、イノベティブで創造的な思考を誘発するワークショップを通じて、現在そして未来の多様なステークホルダーとともに社会的課題の解決を企図し、ともにビジネスまで昇華させる「協創型ビジネス」を構想する3つのテーマで実施している。

- (1) 超高齢社会における近距離モビリティ
- (2) 生活者の健康な暮らしとコミュニティの役割
- (3) 300m×300mの生活空間における持続可能性

ワークショップを踏まえての結論として、オープン・イノベーション推進の観点からは、課題共有及びアイデア創出のための「質の高い合目的な場」の設定は有効であることが分かった。これを受け、DBJは企業のオープン・イノベーションを後押しするため、産学官金との連携をさらに深めつつ、着実に「場」（大手町イノベーション・ハブ）の運営に取り組んでいく。

### 【参考文献】

「㈱日本政策投資銀行 ニュースリリース」

([http://www.dbj.jp/ja/topics/dbj\\_news/2013/html/0000013244.html](http://www.dbj.jp/ja/topics/dbj_news/2013/html/0000013244.html) (2014/3/25 アクセス))



企業・官庁・  
社会と連携

新たな協創型  
ビジネスを構想する  
「場」作りを目指す

iHub

打ち  
破る  
運動を興す  
「自らの殻」を  
広く

課題抽出と  
課題解決を結びつける

## 大手町イノベーション・ハブ (iHub) とは

現在そして未来のステークホルダーとともに**社会的課題・ニーズの解決を企図**

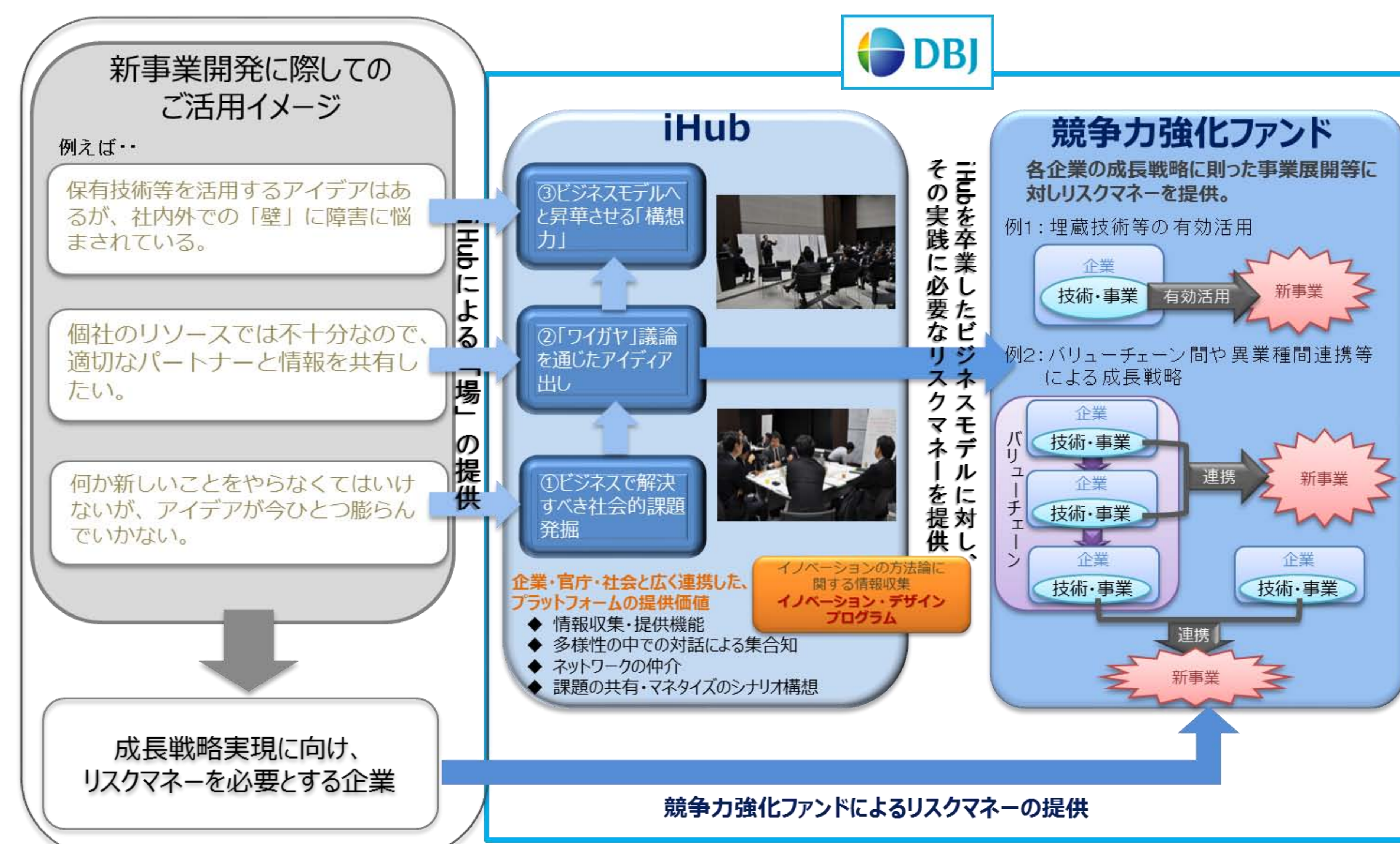
**するビジネスコンセプトをデザイン**する「場」として、平成25年4月1日に「大手町イノベーション・ハブ(iHub)」を開設。場所は**DBJ本店ビル4階ビジネスライブラリー内に開設**、業種横断的な協創型ビジネスの創出を積極的にサポート。

## 大手町iHub設立背景

DBJでは、一昨年11月から半年間、いわゆる産学官の有識者に加えて、金融の専門家、社会起業家、デザイナーといった方にお集まりいただき、『新しいコトへの挑戦を阻害する本質的な原因』『新しいコトを創造する方法論』について対話を重ね、できる限り多くの“現場の声”を伺った。(競争力強化研究会)

結論は2つ。  
前者は、『**マインドの問題**』  
後者は、『**構想力の問題**』

そして、**産業競争力のカギはイノベーション力の発揮にある**との示唆を得た。



## iHubの取り組み (実績)

### テーマ

#### iHub1. 超高齢社会における近距離モビリティ

□問題意識

高齢者の事故増加、安心な移動手段の制約を踏まえ、生活者と都市機能の視点から将来的な近距離モビリティのあり方を構想する。

#### iHub2. 生活者の健康な暮らしとコミュニティの役割

□問題意識

健康寿命が延びる一方、医療、介護の担い手が社会から核家族化、単身化が進む家庭へとシフトすることに伴い、予想される課題の洞察と新たなコミュニティ(都市機能)像、ステークホルダー間の関係性の再定義が期待される。

#### iHub3. 「300m×300mの生活空間」における持続可能性

□問題意識

学び・働く環境、生活する環境(=コミュニティ空間)の持続可能性の観点から、将来ありたい都市機能を洞察する。

### 気づき

- ①生活者起点の発想によりアイデアの質が変化する。
- ②多様・多元的な視点は、「固定観念」を乗り越える発想を生み出す。
- ③協働によるWhite Spaceの探索は事業開発プロセスとして期待できる。
- ④アイデアが実現するまでのストーリー(ビジネスモデル、主体間の関係性等)をデザインすることは、プロジェクトの質を高める。

## 方法論を活用した実証の「場」の提供

